



福祉用具をうまく活用  
できるように支える

病気を抱えている人や  
その家族を支える

家族や子どもを支える

障害のある人を支える

NPOとして支える

海外で問題を抱える人を  
支える

優しい気持ちで支える

制度や法律で支える

生活困窮者を支える

地域での生活を支える

安全な住環境で  
支える

ユニバーサルデザインの  
街や道具で支える

Vision in the future

ハート(ひと)とハード(もの)で  
福祉を拓く社会リハビリテーション

ハート(ひと)を学ぶ...

誰もが安心して自分らしく生きることを願います。その願いを支えるため、生活上の問題がある人にどのように接点を持ち、どのように必要とするサービスにつないでいくか、さらにはサービスをどのように運営していくか(知識と技術)を、ひとと深く関わりあう演習や講義、現場での実習を通して学ぶことができます。

ハード(もの)を学ぶ...

障害や加齢によって自分でできないことが増えていきます。福祉用具やユニバーサルデザインの道具を用いることで、できなくなったことができるようになります。福祉用具を見て触って、まちに福祉用具を使ってかけて自ら問題点を発見する、住宅の中で福祉用具を用いて生活してみるなど、実践中心で学ぶことができます。

神戸学院大学総合リハビリテーション学部では国家試験受験資格を取得できます。  
社会リハビリテーション学科:社会福祉士、精神保健福祉士  
医療リハビリテーション学科:理学療法士、作業療法士

社会福祉と福祉用具とユニバーサルデザインが学べる

社会リハビリテーション学科

<http://www.kgu-sr.net/>

神戸学院大学  
総合リハビリテーション学部

社会リハビリテーション学科HP <http://www.kgu-sr.net/>  
神戸学院大学 〒651-2180 神戸市西区伊川谷町有瀬518 Tel: 078-974-1551

第13回

気づきを築くユニットケア  
全国実践者セミナー in神戸

2014年3月15日(土)~16日(日)

神戸学院大学 有瀬キャンパス  
[〒651-2180 兵庫県神戸市西区伊川谷町有瀬518]

Let's make the life of facilities

認知症ケア専門士単位  
2単位

本セミナー参加で  
取得することができます。

「気づきを築くユニットケア全国実践者セミナー」は、2001年の岡山県笠岡市をスタートに、これまで全国7か所で開催し、毎回多数の実践現場からの日々の取り組みの発表を受け、実践者の交流を深めてきました。

ひとくちにユニットケアと言っても、その取り組みは施設によって実にさまざまです。既存施設を活用しながら、試行錯誤を重ねてようやくユニットケアに至った取り組みがある一方、真新しいユニット型のハードが整っていないながら、ケアの質が追いつかず、職員もお年寄りも疲れてしまった例もあります。

このセミナーは、「ユニットケアの基本は現場の実践にある」との考えから、現場のスタッフが、ケアのあり方やスタッフの育成、施設と地域との連携などの実践をまとめ、伝え合い、交わり合い、より良いものにしていく場として開催します。このセミナーでの発表を機に、「お年寄りの表情が変わった」「職員の姿勢が変わった」「ケアが変わった」など、数多くの感想が寄せられています。

第13回目となる今回も、全国の実践発表をとおして、発表者と参加者がともに学び、考え合う場とすることを目的とし、神戸学院大学を会場に開催いたします。

主催: 気づきを築くユニットケア全国実践者セミナー実行委員会  
共催: 神戸学院大学/特養・老健・医療施設ユニットケア研究会



1日目 3月15日(土)

- 11:50~12:00 開会(各教室にて)
- 12:00~14:05 実践リレー①(5発表)
- 14:05~14:20 休憩
- 14:20~16:25 実践リレー②(5発表)
- 16:25~16:40 休憩
- 16:40~17:55 実践リレー③(3発表)
- 18:30~20:00 交流会(事前申し込み制)

2日目 3月16日(日)

A会場  
定員400人

### 【アンコール報告】

~好評だった発表のあれから1年、  
その後の展開を報告します~

実践報告① ご利用者様の思いを実現する取り組み  
介護老人福祉施設さわらび(長野県)

理学療法士 中島美鈴  
介護福祉士 岩原理恵

10:00 実践報告② 一人じゃない!~ユニットリーダーのチームビルディング  
12:00 扇の森(埼玉県) ユニットリーダー 高浦洋一  
ユニットリーダー 若松由香

実践報告③ 現場職員が主体となる施設研修のあり方を模索中・検討中  
ありすの杜 きのご南麻布(東京都) 介護統括 原田まゆみ

★インタビュー  
神戸学院大学総合リハビリテーション学部 講師 水上 然

12:00 13:00 昼食・休憩

### 【現場実践支援講座2】

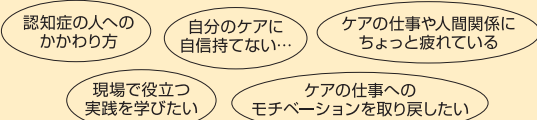
利用者の能力を引き出す、気づきの介護実践  
~動きの主導権を利用者に~

★講師  
手稲溪仁会病院リハビリテーション部 主任 大堀具視

B会場  
定員300人

### 【現場実践支援講座1】

認知症の介護のために知っておきたいこと  
~パーソンセンタードケア入門~



★講師  
パーソンセンタードケア研究会 寺田真理子

12:00 13:00 昼食・休憩

### 【現場実践支援講座3】

住み慣れた団地で最後まで暮らせるケアを考える!

★登壇者  
明舞ひまわり 代表 入江一恵  
あさざり在宅介護支援センター 相談員 稲垣美英  
明舞安心地区推進協議会 会長 小西庸夫

★サポーター  
神戸学院大学総合リハビリテーション学部 准教授 糟谷佐紀

★コーディネーター  
日本福祉大学社会福祉学部 教授 児玉善郎

C会場  
定員100人

### 【東日本大震災と阪神・淡路大震災の今を語る!】

住民同士のつながり支え合う力が、被災地の復興を支える!

★パネラー 「第1回いがす大賞受賞団体」  
二本松市建設技術学院跡地仮設住宅(福島県二本松市)  
あの日あの時甚句つたえ隊(岩手県釜石市)

ぐるーぷ なか(兵庫県宝塚市)

★サポーター  
明石市望海在宅介護支援センター センター長 永坂美晴  
宮城県サポートセンター支援事務所 アドバイザー 浜上 章  
(元兵庫県社会福祉協議会 地域福祉コーディネーター指導員)

★コーディネーター  
「第1回いがす大賞」実行委員会 審査委員長兼実行委員長 大坂 純  
(仙台北百合女子大学 教授)

12:00 13:00 昼食・休憩

### 【特別企画】過疎のまちで生ききる

少子高齢化により人口が大きく減少しつつある現在の日本において、過疎集落の問題は、ひとごとではありません。住み慣れた地域で最期まで暮らすために必要なもの・ケアは何か、実践事例を通して考えます。

★活動報告  
大曾倉ふれんど(長野県) 副代表 古谷葉子  
川根振興協議会(広島県) 会長 辻駒健二

★サポーター  
島根大学教育学部 准教授 作野広和  
鳥取県保健福祉部地域支え愛推進室 室長 金浦文男  
高島市社会福祉協議会 事務局長 馬場八州男

★コーディネーター  
神戸学院大学総合リハビリテーション学部 教授 藤井博志

平成25年度厚生労働省社会福祉推進事業  
「多様な主体の協働による過疎集落での生活支援のあり方に関する調査研究事業」

## 第13回 発表テーマ

### 第1部門

私たちがはじめた、一人ひとりをたいせつにする  
ケアの取り組みで変わった施設ケア(初級編)

ユニットケアに取り組むことになったきっかけや、取り組みのなかで失敗してしまったこと、悩んだことなどの体験談、また取り組みから気づいたことや見えてきたことなどについて発表します。

### 第2部門

一人ひとりへの3大介護のあり方と  
その工夫(基礎編)

ユニットケアで3大介護(食事・入浴・排泄の介護)はどのように変わるのか。  
3大介護にまつわる苦労や工夫について、発表します。

### 第3部門

“食”の工夫で目指す、  
その人らしい豊かな暮らし

食事づくりや場づくり、買い物や外食、栄養マネジメントや口腔ケアなど、その人らしい豊かな暮らしを目指す取り組みの発表します。

### 第4部門

これまでの暮らしの継続を  
たいせつにした生活環境づくり

豊かに暮らすためには生活環境も欠かすことのできない要素の一つです。  
これまでに暮らしてきた環境をできる限り変えないための地域とのつながりや施設の設けの工夫などを発表します。

### 第5部門

介護者家族との協働で実現する、  
その人らしい暮らし方

利用者に身近な存在である家族はかけがえのないたいせつな存在であり、またさまざまな難しさを抱えていることもあります。ご本人が望まれるその人らしい暮らしとその人生を実現するための、家族との関係づくりや協働・連携の取り組みについて発表します。

### 第6部門

ターミナルケアから学んだこと、  
考えたこと、伝えたいこと

施設は、日々暮らしをおくるだけではなく、人生の最期の場となることもあります。  
「施設での看取りのあり方」「医療機関との連携」「看取することをとおして築かれた家族との絆」など、施設におけるターミナルケアを発表します。

### 第7部門

一人ひとりの暮らしを支えるための  
チームケアや多職種との連携

一人ひとりの暮らしを支えるには、その方向性や情報を共有するチームの構築や職種を超えた連携が必要不可欠です。時には、施設を超えた協働や連携も必要となります。ケアに関わる専門職同士が協力しながら、利用者の暮らしを、より豊かにする取り組みを発表します。

### 第8部門

リーダーや管理者、  
その悩みと改革への取り組み

ユニットごとで、ケアの質に大きな差が生じることがあります。よりよいケアを提供すること、現場のさまざまな事情とはごまかして、リーダーや管理者は思い悩みます。そのようなリーダーを支え、育てていく工夫や、管理者やリーダー自らの、組織や現場の変革への取り組みを発表します。

### 第9部門

ユニットケアを支えるスタッフの育成、  
工夫したこと、苦労したこと

昨今、ケアの現場では人不足が深刻な問題となっています。現場経験や知識が少ない初任者に、ユニットケアの考え方をどのように伝えていくか。いまの職員のやる気とやりがいを引き出すにはどうしたらよいのか。スタッフの資質をどう伸ばしていくか、育成のための工夫や体制づくりを発表します。

### 第10部門

災害に備える・取り組む  
一施設の姿勢や地域との関わり方

東日本大震災を契機に、各地で防災対策の見直しが進むなか、施設には災害時における要援護者の受け入れや福祉避難所としての機能など、地域での役割がますます期待されています。地震、津波、水害、火災といった災害に向けた取り組みや、地域との支え合いや関わり方についての発表をします。

- 定員 800人(※定員になり次第、締め切らせていただきます)
- 参加費 ■一般参加費 15,000円  
■ユニットケア研究会員・実践発表者 13,000円  
※施設会員は2人まで、個人会員は1人まで割引適応。  
※実践発表者は、1発表2人まで割引適応。
- 交流会費 2,000円 ●参加申込締切 2014年2月21日(金)

### 参加にあたっての留意点

- 1日目の実践発表は、各教室にて自由にお聞きいただくことになります。つきましては、参加者が多い教室では立ち見となる場合もございますので、あらかじめご了承ください。参加者の皆さまには、申込締切後、教室別の実践発表一覧をお送りいたします。一覧を参考に、各教室を移動してお聞きいただくことになります。
- なお、2日目の各会場につきましては、事前にお申し込みいただきますので、参加申込書に第1希望から第3希望までご記入ください。

### 申し込みに関するお問い合わせ

JTBビジネスネットワーク・JTB東北ECデスク  
(ご連絡いただくのは東京の事務所となっております)  
〒170-0013 東京都豊島区東池袋3-23-14  
ダイヤ・ニッセイ池袋ビル7F JTBビジネスネットワーク気付  
JTB東北ECデスク  
「第13回気づきを築くユニットケア  
全国実践者セミナー」あて  
電話:0120-989-960 FAX:0120-937-224  
E-mail:tohoku-ec@jbn.jtb.jp  
(営業時間:土日祝除く平日 9:30~17:30)

### 内容に関するお問い合わせ

気づきを築くユニットケア  
全国実践者セミナー実行委員会  
事務局/特養・老健・医療施設  
ユニットケア研究会 担当:田村・小野寺・高木  
〒981-0932 宮城県仙台市青葉区  
木町16-30 シンエイ木町ビル1階  
TEL:022-727-8732  
FAX:022-727-8737  
E-Mail:unit@clc-japan.com  
URL:http://www.clc-japan.com